
1人のベットで。

雪花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

1人のベットで。

【Nコード】

N8941B

【作者名】

雪花

【あらすじ】

あの人に触れるだけで死にたくなる。苦しくなる。それでも辞められないのは愛してるから。

いつも思う。

私の隣で寝息をたてて安心したように眠るこの人の事を。

今はここに居るこの人は。

でも・・・

いつか絶対に居なくなるこの人の事を。

体を重ねても。

『愛してる』

『好きだよ。』

愛の言葉を確認し合っても。

私はこの人の1番にはなれない。

知っていてても離れられないのは

この人の事を愛してるから。

私の隣で眠る。

ずっとこのままで居たい。

ずっと一緒に居たい。

現実なんてなくなればいいのに・・・

この人と出会ったのは私がまだ学生の時だった。

まだ幼くて。

でも妙に大人ぶってた。

反抗して親を泣かせたりそんな日々だった。

私を変えたのはこの人でこの人が居たから今の私が居る。

警察に補導された時に一番に駆けつけてくれて親以上に怒って泣いてくれた。

私はこの時から親以上の信頼を寄せて恋心を抱いた。

私はこの人、先生の望む生徒になりたくて学生時代を過ごした。褒められれば更に勉強した。

卒業の日に全てを打ち明けた。

先生は笑って言うてくれた。

「ありがとう。」

僕を好きな気持ちはきつと教師と生徒そんな関係だからなんだよ。僕が教師じゃなかったらきつと君は、僕になんか恋心は抱かなかった。

今までありがとう。」

そう言うてお別れした。

もう会う事なんてないって思った。

もう二度と先生との運命は交わる事はないと思った。
でも・・・

一通の手紙が私と先生の運命をまた交じり合わせた。

同窓会の手紙。

もう会ってはいけないんだ。そう頭では分かった。
やっと封印されはじめた恋心をまた解き放ってはいけないって分かった。

それでも私は会いたかった。

会ったら絶対に私は先生に触れてしまうそう思った。

触れたらもう二度と離す事ができなくなる。

それでも私は会わずにはいられない。
なぜなら愛しているから。

5年ぶりに会う懐かしい顔の中で私は探した。
愛おしいあの人の顔を探した。

5年間で少し老けた顔。
それでも心が覚えてた。
あなたの顔を優しく微笑む笑顔を。

「先生。お久しぶりです。」

先生との思い出を思い出していると携帯の着信音が鳴り響いた。
このまま気付かないふりをしよう。
知らないふりをしよう。
先生は眠ったままだから・・・

私には出来なかった。

無視する事なんてできなかった。

先生の幸せを壊す事なんて出来ないから。

「先生。携帯鳴ってる。」

「ん・・・？」

寝ぼけてても着信音ですぐ目を覚まして電話に出る。

「もしもし。今？学校終わって先生たちと飲んです。ん？少し遅くなる。先に寝てて。うん。じゃあ。」

深いため息について申し訳なさそうに私を見る。

私はこの瞬間がものすごく罪悪感でいっぱいになる。

「ごめんね。」

私を抱きしめて耳元で呟く。

「ううん。先生早く帰らないと待ってるよ。」

「うん。」

そう言つてスーツに着替える。

ネクタイをしめる瞬間それは私の夢が終わる時。

ベットに座ったままの私にキスを落として帰ってく。

ドアが閉まる音を確認して私はいつも声を押し殺して泣く。

この人と居ると胸が痛い。

この人に触れると死にたくなる。

それでも一緒に居たい。

愛してるから。

先生は絶対に携帯を見せようとしなない。

知ってるよ。

待ち受けが、綺麗な奥さんと先生に良く似た男の子。

そして私には見せた事ない笑顔で笑う先生だった事。

今夜も私は一人で先生の温もりが残ったベットで眠る。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8941b/>

1人のベットで。

2011年10月3日21時14分発行